

2022 年度 事業報告

2022年4月1日から2023年3月31日まで

I. 避難者を支える活動

(1) 事業の成果と課題

福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業を中心に四国に避難している方々への様々な相談支援を行った。相談件数自体は、昨年度とほぼ同様、一方で、相談内容はより深刻で長く続いている困りごとをお聞きすることが多かった。

個別訪問や交流会では、つながり続けることでの孤立感の軽減や支え会える実感などをもたらすことができたのではないかと考えている。毎月実施したオンライン交流会では、同郷の方同士が話をしたり、震災のことを語ったり、今の生活の近況報告をし合ったりする場面があり、つながりを維持していく事の大事さを再認識した。

課題点としては、交流会の参加人数が少ないので広報（特に SNS）に力を入れ、参加者が多すぎて話せなくなる程度の人数で実施できればと考えている。

(2) 事業の実施に関する事項

【 情報提供・相談業務事業 】

①（相談業務事業） ※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

・事務所内を相談窓口として活用し、平日の10時～15時開所した。電話、メール、SNS などによる相談は随時対応した。

相談件数（のべ件数）	115 件（2021 年度 115 件、2020 年度 135 件）
------------	------------------------------------

相談者数（実数）	21 人（2021 年度 63 人、2020 年度 68 人）
----------	---------------------------------

来所者数（のべ数）（避難者のみ）	46 人（2021 年度 23 人、2020 年度 10 人）
------------------	---------------------------------

②（情報受発信事業） ※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

・情報受発信の本拠地として、情報受発信を行なった。

・機関誌『楽しんで！四国 L I F E 四国内避難者・移住者通信』を発行し、四国内の避難者約40世帯に郵送した。春号7月、夏号9月、秋号11月、冬号2月に発刊した。

・会員約50名には、年に4回（春号7月、夏号9月、秋号11月、冬号2月）『えひめ311通信』を発刊した。

・地域の情報コーナー、NPOサポートセンターなどに機関紙やちらしを配架していただき、広報活動にも努めた。

・交流会などの各種イベント案内は、その都度避難者の方々へちらし郵送した。

・ホームページ、SNS（Instagram、Twitter、フェイスブック）については随時更新を行った。

③（四国内避難者への訪問活動）

・四国内避難者を対象に事前アンケート調査を実施し、希望された方々へお米を携えた見守り訪問を実施した。継続している事業なので、避難者の方々との信頼関係も深まり、訪問時に現在の生活状況や将来的な悩みなどを話される方もいた。持ち帰った相談に対しては、継続的な支援を実施し、地域の社会資源へつなぐなど対応をおこなった。

・お渡ししたお米は、農業者の堀内さんに協力依頼し格安で譲っていただいた。

・今年度は、愛媛：20世帯、香川：6世帯、高知：4世帯、徳島：0世帯 合計：30世帯

（2021年度は、愛媛：17世帯、香川：6世帯、高知：3世帯、徳島：0世帯 合計：26世帯）

（2020年度は、愛媛：19世帯、香川：7世帯、高知：4世帯、徳島：0世帯 合計：30世帯）

④（連携構築のための取組） ※福島県県外避難者への相談・交流・説明会事業

・福島県庁の避難者支援担当者と愛媛県庁、香川県庁の担当部署に事業説明に伺った。

【被災者・避難者の『命と尊厳』を守るための事業】

①（交流会事業）

<愛媛県内交流会事業>

・3月11日に石手寺で開催された3.11追悼式後に交流会を行った。参加者人数は、約20名

・道後公園でお花見を実施した。参加人数は、16名

<オンライン交流会>

・コロナ禍を考慮して、毎月1回第2月曜日の13時～15時に、ZOOMを使ったオンライン交流会を実施した。各回の参加人数は、1～5名程度であった。他県の避難者の方やたまたま交流会をSNSで知った方や避難者ではない地域の方や震災に興味関心がある方などと交流することができた。大抵フリーテーマで行ったが、避難元の話や文化の違いなどの話題はいつも盛り上がっている。

<四国避難者交流会>

・コロナも落ち着いてきたので、数年ぶりに四国避難者交流会を実施した。行き先は、大分県別府とし、参加人数は、15名であった。今回の交流会で初めて出会った避難者の方もおり、驚くと共に継続して実施してよかったと思った。以下詳細です。

参加費：大人（中学生以上）12,000円 ※ワクチン証明書・陰性結果通知書を提出できる方は10,000円

子ども（小学生） 7,000円 ※ワクチン証明書・陰性結果通知書を提出できる方は5,000円

未就学児 無料

※参加費には、宿泊費、マイクロバス料金、入場料（九重吊橋、地獄めぐり）が含まれています。

昼食費、集合場所までの交通費、駐車料金、お土産代は、自己負担となります。

1日目	11月 12日(土)	9:00			11:30		12:40		14:30		悠久四季の宿	
		松山市駅			三崎関		佐賀関		九重“夢”大吊橋着		九重悠々亭	
				16:30		17:00						
				九重“夢”大吊橋発		九重悠々亭					〒879-4912	
2日目	11月 13日(日)	8:00		9:30			11:30		11:40		大分県玖珠郡九重町湯坪662	
		九重悠々亭		海地獄			白池地獄		血の池地獄			
				13:00		15:00		16:10	18:30			
				龍巻地獄		佐賀関		三崎関		松山市駅		



②（帰省旅費支援事業）

・四国内避難者の方々31世帯47名（2021年度17世帯41名、2020年度19世帯56名）の方々を利用した。家族との再会やお見舞い、お墓まいり、進学準備などのための利用がみられた。避難者にとって、使いやすくニーズの高い事業となり、予定以上の申し込みとなった。

③（健康診断実施事業）

・避難者からの要望が多かった甲状腺検査をはじめとする健康診断を愛媛生協病院の協力のもと、実施した。当団体は、受診日の案内、受付窓口を担当した。合計で8名(2021年度1名、2020年度は5名)の避難者が健康診断を受診した。コロナ禍も落ち着いたことで、昨年度より利用者が増えた。

④（自立支援事業）

- ・協働オフィスの管理事務費、えひめリソースセンターの事務委託費を充てる。
- ・コロナのため、バザーなどのイベントは参加しなかった。

Ⅱ．被災地の復興に向けた活動

（１） 事業の成果と課題

災害支援の緊急対応は、実施しなかった。

（２） 事業の実施に関する事項

①（被災地支援事業）

- ・災害支援の緊急対応は、実施しなかった。

Ⅲ. これから起こる災害に備える活動

(1) 事業の成果と課題

コロナ禍により、オンラインの環境が整い、オンラインでの講演会や研修会が増え、回数は昨年度と比べ増えた。また、SNS を使い、防災豆知識や非常食レシピなどを発信することができた。SNS の反応も良く、発信する側も慣れてきたこともあるので、今後も SNS 等を使い、身近な話題として防災関連の記事を発信し、愛媛県に啓発していきたい。

古川ふれあい農園では、当団体が管理業務を行い、愛媛医療生協の「レインボーファーム」の方々が中心となり、高齢者の生きがいづくりや近隣の幼稚園のサツマイモ農園として役割を果たしている。

東雲コミュニティファームは、えひめグローバルネットワークと協働し事業を行い、東雲小学 2 年生の生活科の授業でさつまいも植えとさつまいも堀りを実施した。

課題としては、震災の時の写真や映像を事務所内で展示し、地域の方々に公開したが、避難者以外の来訪者は少なく、防災意識向上のための啓発活動までには至らなかった。

(2) 事業の実施に関する事項

①（講演会やワークショップ、写真展等開催事業） ・2021 年度は、24 回 2020 年度は、13 回

回数	実施日	講演内容など	実施場所	対象者	参加数 (概数)	担当者
1	5/20	松山市市民活動推進委員会	コムズ	松山市市民活動推進委員	8 人	澤上
2	6/11	松山市自主防災組織 選考委員会	松山市消防署	松山市自主防災組織補助金応募団体	30 人	澤上
3	6/18	スタディーツアー報告会	愛媛県生活文化センター	スタディーツアー参加者、総会参加者	10 人	澤上・吉田・山川
4	6/24	愛媛県ボランティア・市民活動センター運営委員会	愛媛県社会福祉協議会	運営委員	10 人	澤上
5	7/1	JCN ケースマネジメント推進会議キックオフ会議	オンライン	ケースマネジメント推進メンバー	15 人	澤上
6	7/28	災害支援プロジェクト委員会	愛媛県社会福祉協議会	災害支援プロジェクト委員	10 人	澤上
7	8/3	JCN ケースマネジメント推進会議	オンライン	ケースマネジメント推進メンバー	9 人	澤上
8	9/6	JCN ケースマネジメント推進会議	東京	ケースマネジメント推進メンバー	9 人	澤上
9	9/15	JCN ケースマネジメント推進会議	オンライン	ケースマネジメント推進メンバー	9 人	澤上

10	9/29	JCN ケースマネージメント推進会議	東京	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
11	10/4	NPO 防災ネット会議	コムズ	参加団体	5 人	澤上
12	10/20	JCN ケースマネージメント推進会議	東京	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
13	10/22	防災国体 パネルディスカッション	人と防災未来センター	一般	50 人	澤上
14	11/1 ～2	災害ボランティアセンター中核スタッフ養成研修	愛媛県社会福祉協議会	社会福祉協議会職員 災害支援プロジェクト委員	30 人	澤上
15	11/15	JCN ケースマネージメント推進会議	東京	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
16	11/16	東日本大震災と愛媛県での避難生活	愛媛大学	学生	30 人	澤上
17	11/19	広域避難者支援連絡会 in 東京 交流会	オンライン	広域避難者支援連絡会、避難者	不明	澤上
18	11/28	JCN ケースマネージメント推進会議	東京	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
19	12/10	避難者と地域の交流フォーラム 島根	オンライン	避難者、支援者、行政他	不明	澤上
20	12/19	JCN ケースマネージメント推進会議	オンライン	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
21	1/10	JCN ケースマネージメント推進会議	オンライン	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
22	1/14	避難者と地域の交流フォーラム 鳥取	オンライン	避難者、支援者、行政他		澤上
23	1/27	JCN ケースマネージメント推進会議	東京	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
24	1/21	避難者と地域の交流フォーラム 広島	オンライン	避難者、支援者、行政他		澤上
25	2/4	避難者と地域の交流フォーラム 山口	オンライン	避難者、支援者、行政他		澤上
26	2/17	ラジオ「四国防災ネットワーク」	NHK ラジオ	視聴者		澤上
27	3/1	JCN ケースマネージメント推進会議	東京	ケースマネージメント推進メンバー	9 人	澤上
28	3/5	松山市市民活動推進委員会	コムズ	松山市市民活動応募団体		澤上
29	3/8	防災デイズ『防災食づくり』	三瓶高校	学生	30 人	渡部
30	3/29	震災、避難、そして防災へ	愛媛県教育会館	一般	30 人	澤上

②（被災地スタディーツアー）

・参加者は、全員で 12 名。そのうち 2 名が大学生でした。今回は、コロナ禍も落ち着いたということで、被災地の現地に足を運び、東日本大震災を五感で学ぶことを目的に開催しました。行程は、以下の通りです。スタディーツアー参加後の感想では、東日本大震災に対してほとんど何の知識もなく、どこか他人事のように過ごしてきた自分が、地震や津波、原発事故のことをもって勉強して、いろんな人に伝えていけるような人間になりたいと考えるようになりました。また、現地に行き、五感で感じる事がどれほど大切なことなのか、身に染みて感じる事ができました。このスタディーツアーを通して、いろいろなものを見て、語り部さんや被災者のお話を聞いて、質問をさせていただく中で、全てに対して今までの想像を遥かに超える衝撃を受け、とても勉強になりました。勉強になったと同時に、私自身、知らないことが多すぎるなど痛感しました。現地から多くのパンフレットを持って帰ったので、勉強して何か意見の言えるような人間になりたいと思います。また、現地に実際に赴くことの大切さを感じました。いろいろな画像や動画、景色を見ていく中で、常に自分の考えが生まれ、それぞれに感じる事が多くありました。なぜ原発事故を防ぐことはできなかったのか、なぜ逃げ遅れてしまう人が出てしまったのか、防げることはいくつもあるのではないかと感じました。今までは大人になったら人の役に立ちたいなど漠然と考えていましたが、このスタディーツアーを通して、防災・減災のことを勉強して、人々や地域に貢献したいという固い決心に変わりました。周りの人の笑顔を守り、安心安全を与えられるような大人になりたいと思います。などといった声をいただきました。

1 日目	5/27（金）	愛媛→福島（飛行機）宿泊：抱月荘（福島県南相馬市）
2 日目	5/28（土）	福島県浜通りへ訪問（耕作放棄地の見学、東京電力廃炉資料館、東日本大震災・原子力災害伝承館、避難区域内見学、震災遺構浪江町立請戸小学校）
3 日目	5/29（日）	福島→宮城（バス）気仙沼市訪問（気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館）宮城→岩手（バス）陸前高田市訪問（高田松原津波復興祈念公園一本松、東日本大震災津波遺伝承館いわて TSUNAMI メモリアル）宿泊：アコモイン気仙沼（宮城県気仙沼市）
4 日目	5/30（月）	宮城→愛媛（飛行機）

避難区域内の自宅へ訪問



渡部さん家の田んぼで記念撮影



東日本大震災津波遺伝承館いわて



③（減災農園運営事業）

<古川ふれあい農園>

- ・古川ふれあい農園の運営管理業務を行った。
- ・レインボーファームが中心となって、三葉幼稚園とさつまいも植えを実施した。レインボーファームは、コープの助成金を獲得し、農園事業の充実と事業の安定、設備の充実を図った。

<東雲コミュニティファーム>

- ・NPO法人えひめグローバルネットワークと共に東雲コミュニティファームを利用した事業を行った。
- ・松山市立東雲小学校 2 年生の環境学習の場として 6 月にさつまいもの苗植え、11 月に収穫を行った。